

図4 胼胝

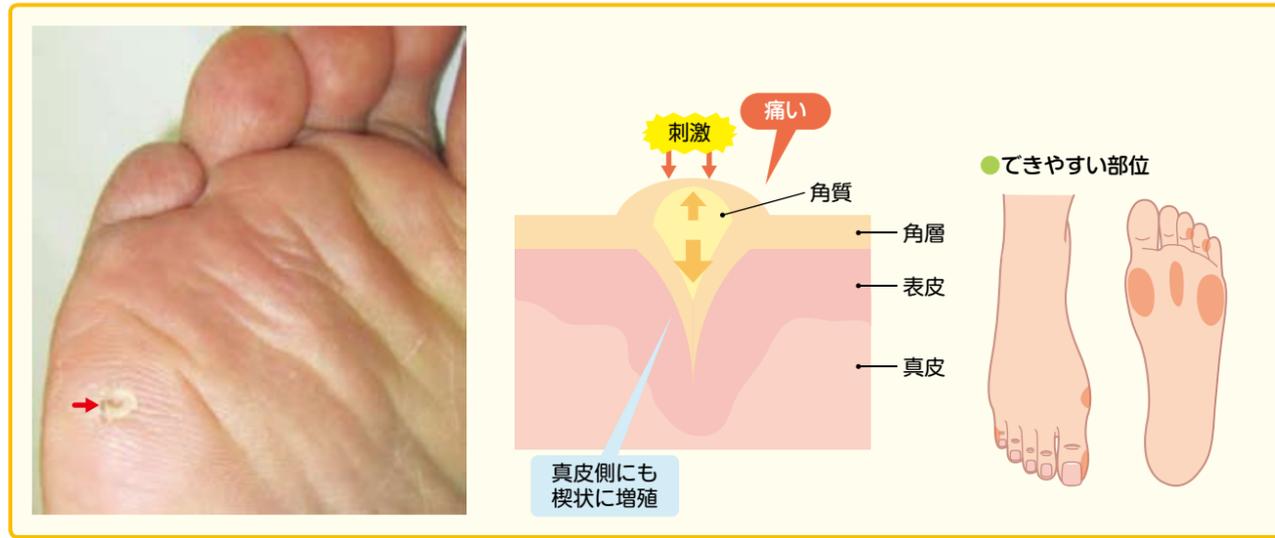


図5 鶏眼

足白癬・爪白癬

白癬は皮膚糸状菌による真菌感染症で、一般的に「水虫」「タムシ」などと呼ばれます。ケラチンという蛋白を栄養にして繁殖するため、ケラチンが存在する皮膚や爪、毛に感染します。足病変では足白癬、爪白癬があります。白癬の診断は、検体を顕微鏡で観察する直接鏡検法や、培地に接種する真菌培養法で行います。糖尿病患者は健常人よりも高い罹患率です。

足白癬では、①趾間に浸軟した鱗屑を付する紅斑やびらんを伴う趾間型(図6A)、②足底から足側縁にかけて水疱や膿疱を伴う小水疱型(汗疱型)(図6B)、③踵を中心に皮膚の肥厚、角化を伴う角質増殖型(図6C)の3型に分類されます。

爪白癬では爪の白色調や黄色調の混濁、肥厚、変形などを生じます(図7)。

白癬菌はケラチンのない皮下組織では増殖でき



図6 足白癬



図7 爪白癬



図8 趾間型足白癬から足趾切断に至った症例

ませんが、白癬によるびらんや亀裂から二次的に細菌感染症を起こして糖尿病性潰瘍・壊疽を生じ

る(図8)ことがある⁷⁾ため、外用薬や内服抗真菌薬を使用して治療する必要があります。